

メディア各社様

取材のお願い

大学間連携災害ボランティアシンポジウム
「復興状況の変化と学生ボランティアの役割」

日時：2014年12月12日（金）・13日（土）**場所：東北学院大学土樋キャンパス****8号館5階押川記念ホール・第1～2会議室****共催：大学間連携災害ボランティアネットワーク****復興大学災害ボランティアステーション****復興庁宮城復興局****東北学院大学災害ボランティアステーション****後援：防災からまちづくりを考える実行委員会****備考：申込不要、入場無料****【開催趣旨】****希望の発祥地としての被災地**

震災から3年半が経ち、被災地の現実是我们から遠ざかりつつあるように見える。目に見える傷跡は多くが消えつつある。また、競争原理の強化による経済の活性化と個人の選択や自助努力の強調という社会風潮によって、「自らの努力」を自分に、そして他者に語る言葉が、「他者と共にあること」を語る言葉を遠ざけている。「震災後の今」のリアリティは私たちの目に見えにくく、私たちの耳に聞こえにくくなっている。

その一方で奇妙な現実がある。ボランティアで被災地を訪れる者の多くは、かつてより「歓待」をしてくれる被災者に多く出会っている。「炊き出し」に行くボランティア学生はむしろ被災者から料理をふるまわれ、祭りの支援に行く学生は、どっさりとホタテをいただいている。手を握りに行ったものが、より強く手を握りしめられる。

この「歓待」のうちにあるものは何か。困難なうちにあるはずの被災地の人々が見せる歓待は、一方で「外部の人」と繋がる関係への「ニーズ」の深さを示している。しかし、それだけではない。この「歓待」が日常の他者への応接を超えた何かであり、歓待される側ではなく、歓待する側の高貴さを示すような、普通ではない歓待である限り、被災地は、あるいは「被災地と関わっていくこと」は、自助努力が喧伝される社会のあり方を超えた社会のあり方を考える基点となりうるのではないか。そして、「高貴な歓待」が私たちが見据えるべきもう一つの被災地のリアリティであるとすれば、被災地のリアリティを見ず、聞かないことは、社会のもう一つのあり方の可能性を消し去ることを意味する。

被災地は人と人を結ぶ原理を組み替える希望の発祥地たりえないか——。今回のシンポジウムを通して、被災地の多様なリアリティのうちに、関係へのニーズと、新しい社会のあり方への希望が見出され、共有されることを、主催者側は望んでいる。

【プログラム】

12/12（金） 1日目

メイン会場／東北学院大学土樋キャンパス 8号館 5階押川記念ホール

12:00～14:00 ポスターセッション・パネル展示（8号館 3階第1～2会議室）

14:00～14:10 **主催者挨拶**

佐々木 俊三（東北学院大学副学長・同大学教養学部教授）

梶原 康之（復興庁宮城復興局局长）

14:10～15:20 **セッション1** 基調講演「震災復興と社会的ネットワーク 被災者の生活再建に向けて学生ボランティアができることとは？」

立木 茂雄氏（同志社大学社会学部教授）

15:20～15:30 休憩（10分）

15:30～16:10 **セッション2** 事例報告「広島の実害地域における災害ボランティア活動報告」
報告者：平岡 健氏（広島修道大学・ひろしま未来協創センター）

16:10～16:20 休憩（10分）

16:20～17:20 **セッション3** 学生フォーラム①「東北の大学生の取り組み」
報告者：東北学院大学、尚綱学院大学、東北大学の学生（予定）
コーディネーター：東北学院大学の学生（予定）

17:20～17:40 **挨拶** 「大学連携災害ボランティアネットワーク今後の展望について」
郭 基煥（東北学院大学災害ボランティアステーション所長・同大学経済学部教授）

12/13 (土) 2日目

メイン会場／東北学院大学土樋キャンパス 8号館 5階押川記念ホール

9:30～11:40 **セッション4** 学生フォーラム②「全国の大学生の取り組み」

報告者：神戸学院大学、広島修道大学、大阪学院大学、敬和学園大学、
中央大学、西南学院大学、立命館大学の学生（予定）

コーディネーター：東北学院大学の学生（予定）

11:40～13:00 ポスターセッション・パネル展示（8号館3階第1・2会議室）／休憩

13:00～14:50 **セッション5** 市民フォーラム「被災地域の課題と学生ボランティアの意義」

報告者：岩佐 秀広（山元町社会福祉協議会・事務局長）

田澤 紘子（仙台市市民文化事業団）

坂上 英和（特定非営利活動法人コースター）

コーディネーター：齊藤 康則（東北学院大学災害ボランティアステーション副所
長・同大学経済学部准教授）

14:50～15:00 **挨拶** 閉会

阿部 重樹（復興大学災害ボランティアステーション部門事業実施責任者・東北学院
大学経済学部教授）

[問合せ先]

復興大学災害ボランティアステーション

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目 3-1 東北学院大学 土樋キャンパス内 7号館 2階 725 教室

TEL:022-264-6522 FAX:022-264-6522(受付対応時間:平日 11:00～16:30)

MAIL:revolu@tscc.tohoku-gakuin.ac.jp

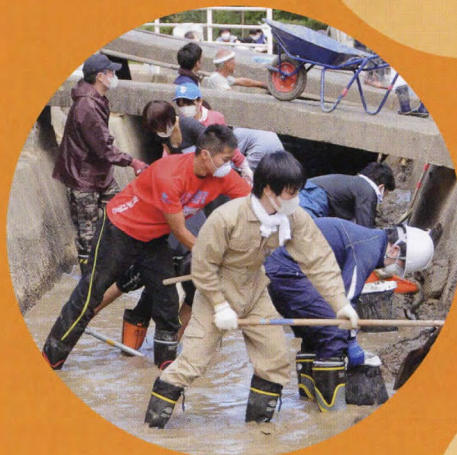
ホームページ: <https://www.fukkou-daigaku-volunteer.jp/>

大学間連携災害ボランティアシンポジウム

復興状況の変化と 学生ボランティアの役割

2014.12/12 **金**・13 **土**

場所 | 東北学院大学土樋キャンパス
8号館5階 押川記念ホール・8号館3階第1~2会議室



申込不要
入場無料



共催：復興大学災害ボランティアステーション
大学間連携災害ボランティアネットワーク
復興庁宮城復興局
東北学院大学災害ボランティアステーション

後援：防災からまちづくりを考える実行委員会

大学間連携災害ボランティアシンポジウム

復興状況の変化と学生ボランティアの役割

開催趣旨 希望の発祥地としての被災地

震災から3年半が経ち、被災地の現実には私たちから遠ざかりつつあるように見える。目に見える傷跡は多くが消えつつある。また、競争原理の強化による経済の活性化と個人の選択や自助努力の強調という社会風潮によって、「自らの努力」を自分に、そして他者に語る言葉が、「他者と共にあること」を語る言葉を遠ざけている。「震災後の今」のリアリティは私たちの目に見えにくく、私たちの耳に聞こえにくくなっている。

その一方で奇妙な現実がある。ボランティアで被災地を訪れる者の多くは、かつてより「歓待」をしてくれる被災者に多く出会っている。「炊き出し」に行くボランティア学生はむしろ被災者から料理をふるまわれ、祭りの支援に行く学生は、どっさりとおたてをいただいている。手を握りに行ったものが、より強く手を握りしめられる。

この「歓待」のうちにあるものは何か。困難なうちにあるはずの被災地の人々が見せる歓待は、一方で「外部の人」と繋がる関係への「ニーズ」の深さを示している。しかし、それだけではない。この「歓待」が日常の他者への応接を超えた何かであり、歓待される側ではなく、歓待する側の高貴さを示すような、普通ではない歓待である限り、被災地は、あるいは「被災地と関わっていくこと」は、自助努力が喧伝される社会のあり方を越えた社会のあり方を考える基点となりうるのではないか。そして、「高貴な歓待」が私たちが見据えるべきもう一つの被災地のリアリティであるとすれば、被災地のリアリティを見ず、聞かないことは、社会のもう一つのあり方の可能性を消し去ることを意味する。

被災地は人と人を結ぶ原理を組み替える希望の発祥地たりえないか。今回のシンポジウムを通して、被災地の多様なリアリティのうちに、関係へのニーズと、新しい社会のあり方への希望が見出され、共有されることを、主催者側は望んでいる。

12/12 金

メイン会場/
東北学院大学土樋キャンパス 1日目
8号館5階押川記念ホール

12:00~14:00 ポスターセッション・パネル展示
(8号館3階 第1~2会議室)

14:00~14:10 開会

挨拶/佐々木 俊三(東北学院大学副学長・同大学教養学部教授)
梶原 康之(復興庁宮城復興局局長)

14:10~15:20 基調講演

「震災復興と社会的ネットワーク

被災者の生活再建に向けて学生ボランティアができることは？」

立木 茂雄氏(同志社大学社会学部教授)



15:20~15:30 休憩(10分)

15:30~16:10 事例報告

「広島の実地地域における 災害ボランティア活動報告」

報告者 平岡 健氏(広島修道大学・ひろしま未来創削センター)

16:10~16:20 休憩(10分)

16:20~17:20 学生フォーラム①

「東北の大学生の取り組み」

報告者 東北学院大学、尚絅学院大学、東北大学の学生(予定)

コーディネーター 東北学院大学の学生(予定)

17:20~17:40 報告・挨拶

「大学間連携災害ボランティアネットワーク 今後の展望について」

郭 基煥(東北学院大学災害ボランティアステーション所長・同大学経済学部教授)

12/13 土

メイン会場/
東北学院大学土樋キャンパス 2日目
8号館5階押川記念ホール

9:30~11:40 学生フォーラム②

「全国の大学生の取り組み」

報告者 神戸学院大学、広島修道大学、大阪学院大学、
敬和学園大学、中央大学、西南学院大学、
立命館大学の学生(予定)

コーディネーター 東北学院大学の学生(予定)

11:40~13:00 ポスターセッション・パネル展示/休憩
(8号館3階 第1~2会議室)

13:00~14:50 市民フォーラム

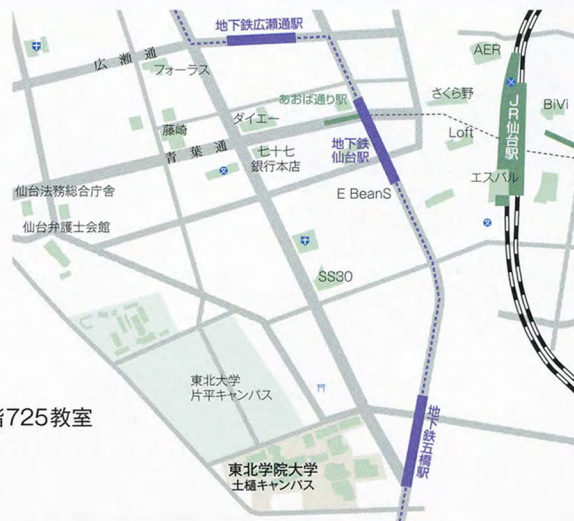
「被災地域の課題と学生ボランティアの意義」

報告者 岩佐 秀広(山元町社会福祉協議会・事務局長)
田澤 紘子(公益財団法人仙台市市民文化事業団)
坂上 英和(特定非営利活動法人コースター)

コーディネーター 齊藤 康則(東北学院大学災害ボランティアステーション副所長
同大学経済学部准教授)

14:50~15:00 閉会

挨拶/阿部 重樹(復興大学災害ボランティアステーション部門事業実施責任者
東北学院大学経済学部教授)



[問合せ先]

復興大学災害ボランティアステーション

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1 東北学院大学 土樋キャンパス 内7号館2階725教室

TEL:022-264-6522 FAX:022-264-6522 (受付対応時間:平日 11:00~16:30)

MAIL:revolu@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

ホームページ:https://www.fukkou-daigaku-volunteer.jp/